

## カリキュラム

### (1)人間教育学科

平成29年度以降入学者

### ディプロマ・ポリシー

(1) 保育や教育についての基礎的な知識を身につけている。	知識・理解
(2) 保育や教育についての基礎的な技能を身につけ、調査・研究した結果を適切に発表することができる。	技能・表現
(3) 保育や教育に関わる事象について調査し、それにもとづき考え、判断することができる。	思考・判断
(4) 保育や教育をとおして社会に貢献しようとする態度・志向性を身につけ、卒業後も常に新しい知識や技術を習得しようとする。	態度・志向性

### カリキュラム・ポリシー

(1) 基本教育科目	・社会人・職業人としての必要能力(スキル、人間力および教養力)を身につける。
(2) 専門基礎科目	・人間学を構成する各学問分野に関して総論的に学ぶ。
(3) 専門展開科目	・保育と教育、心理と支援の基本から応用までを学ぶ。
(4) 専門研究科目	・保育と教育について総合的に学ぶ。

## 履修基準

### ●卒業所要単位

人間教育学科の学生は、4年の修業年限を満たし、下表の卒業所要単位を修得することにより、学士（人間教育学）の学位を得て卒業することができます。

### ●履修登録単位数の上限

人間教育学科では、授業と予習・復習の時間を含めて十分な学習効果があげられるように、1年間に履修できる単位の上限を設けており、49単位までとなっています。ただし、CAP制適用除外科目は含みません。

### ●自由選択単位

人間教育学科では、基本教育科目や専門教育科目の各科目区分の最低修得要件単位を超えて修得した単位を一定範囲で卒業単位に含めることができる「自由選択単位」制度を導入しており、18単位を上限に当該単位として認めています。ただし、基本教育科目は12単位までとなっています。また、ジョイントプログラムは、学科の承認のもと、他学部・他学科や単位互換協定等に基づく他大学等で修得した単位も当該単位に含めることができます。

### ●その他

4年間の目標を定め、体系的な学習につながるように、学科が提示する履修モデルに沿って計画的な履修に努めてください。免許・資格の取得を目指す場合、免許・資格によって選必区分が異なることがあるので留意してください。特に、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭の資格を取得しようとする場合は、各々の基準が適用されます。（免許・資格の詳細については別途説明しています。特に、教員免許については独立した教職課程の項の中で10人間学部における教職課程の履修として説明しています。）

人間教育学科の科目区分と卒業所要単位

基本教育科目	スキル 養成	情報と分析力	4単位以上	12単位 以上	26単位 以上
		表現力	8単位以上		
	社会性 養成	キャリアの形成	2単位以上	8単位 以上	
		社会との関わり	6単位以上		
	教養力 養成	人間の理解	2単位以上	6単位 以上	
		社会の理解	2単位以上		
自然の理解		2単位以上			
専門教育科目	専門基礎科目	学部専門基礎	12単位		98単位 以上
	専門展開科目	保育と教育の基礎	8単位以上	61単位 以上	
		保育と教育の理解	48単位以上		
		保育と教育の実践	—		
	専門関連科目	専門関連科目	—		
専門研究科目	保育・教育総合演習	12単位			
(自由選択単位)			(18単位以下)		
合計単位数			124単位以上		

人間教育学科 カリキュラム表 平成29年度以降入学者

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数	必修◎、必修修(◎)、選択必修○、選択△、自由▲								単位数			履修条件		
大	中	小				1年	2年	3年	4年	必修・必修修	選択必修	選択							
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期							
基本教育科目	情報と分析力	情報活用法Ⅰ	1前	2	◎								2			2	4単位以上		
		情報活用法Ⅱ	1後	2		◎							2			2			
		情報社会論	1後	2		△									2				
		基礎統計学	1前	2	△										2				
		基礎数学	1前	2	△										2				
	スキル養成	表現力	日本語技法A	1前	2	◎								2			2	8単位以上	
			日本語技法B	1後	2		△									2			
			英語A	1前	2	◎									2				2
			英語B	1後	2		◎								2				2
			英語C	2前	2			○								2			
			英語D	2後	2				○							2			
			英語コミュニケーションA	1前	2	○										2			
			英語コミュニケーションB	1後	2		○									2			
			英語コミュニケーションC	1前	2	○										2			
			英語コミュニケーションD	1後	2		○									2			
			中国語AⅠ	1前	2	○										2			
			中国語AⅡ	1後	2		○									2			
			中国語BⅠ	1前	2	○										2			
			中国語BⅡ	1後	2		○									2			
			フランス語AⅠ	1前	2	○										2			
			フランス語AⅡ	1後	2		○									2			
			フランス語BⅠ	1前	2	○										2			
			フランス語BⅡ	1後	2		○									2			
			ドイツ語AⅠ	1前	2	○										2			
			ドイツ語AⅡ	1後	2		○									2			
	ドイツ語BⅠ	1前	2	○										2					
	ドイツ語BⅡ	1後	2		○									2					
	ハングルAⅠ	1前	2	○										2					
	ハングルAⅡ	1後	2		○									2					
	ハングルBⅠ	1前	2	○										2					
	ハングルBⅡ	1後	2		○									2					
	社会性養成	キャリア形成	キャリア設計	1後	2		(◎)							必修2			2	2単位以上	
			キャリア開発	2通	2			△	△							2			
キャリア研究			3前	2					△						2				
国際体験研修			1~4集中	2											2				
社会との関わり		フレッシュマンセミナー	1通	4	(◎)	(◎)								必修4			4	6単位以上	
		いしのまき学	1前	2	(◎)									必修2			2		
		復興ボランティア学	1前	2	△											2			
		ボランティア論	1後	2		△										2			
ボランティア演習	2後	2			△									2					
総合科目	1前	2	△											2					
教養力養成	人間の理解	日本の歴史	1前	2	○									2			2		
		世界の歴史	1後	2		○								2					
		異文化理解の人類学	1後	2		○								2					
		哲学-知の起源-	1前	2	○									2					
		芸術と文化	1後	2		○								2					
	日本文学へのいざない	1前	2	○									2						
	社会の理解	法と社会	1前	2	○									2			2		
		法と人権	1後	2		○								2					
		経済と社会	1前	2	○									2					
		地理学-身近な地域から世界まで-	1前	2	○									2					
		地域と政策	1後	2		○								2					
	自然の理解	生命と地球	1前	2	○									2			2		
		物質とエネルギー	1後	2		○								2					
		環境と科学	1後	2		○								2					
健康科学と身体運動		1前	2	○									2						
生活習慣と健康管理	1後	2		○								2							
基本教育科目合計①															26単位以上				

科目区分			授業科目の名称	配当年次	必修・必履修◎、選択必修○、選択△								単位数			履修条件						
					1年	2年		3年		4年		必修・必履修	選択必修	選択								
大	中	小	単位数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				前期	後期						
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	学部 専門 基礎	人間学概論	1前	2	◎									必2			12単位	98単位以上			
			心理学概論	1前	2	◎										必2						
			社会学概論	1後	2		◎									必2						
			社会学概論	1前	2	◎										必2						
			教育学概論	1前	2	◎										必2						
			復興の社会学	2前	2			◎								必2						
	専門 展開 科目	保育と 教育の 基礎		教職概論	2前	2			△									2		8単位以上		
				教育原理	1後	2		△										2				
				教育制度論	3後	2						△									2	
				教育心理学	1前	2	△														2	
				保育原理	1後	2		△													2	
				保育者論	2後	2				△											2	
				社会的養護	2後	2				△											2	
				家庭支援論	3前	2					△										2	
				児童家庭福祉	3前	2					△										2	
				保育と 教育の 理解			保育内容総論	1後	2		△											
		保育内容(健康)	2前				2			△										2		
		保育内容(人間関係)	2前				2			△											2	
		保育内容(環境)	2前				2			△											2	
		保育内容(言葉)	2前				2			△											2	
		保育内容(音楽表現)	2前				2			△											2	
		保育内容(造形表現)	2前				2			△											2	
		初等教科教育法(国語)	2前				2			△											2	
		初等教科教育法(社会)	2後				2				△										2	
		初等教科教育法(算数)	2後				2				△										2	
		初等教科教育法(図画工作)	2後				2				△										2	
		初等教科教育法(生活)	3前				2					△									2	
		初等教科教育法(音楽)	3前				2					△									2	
		初等教科教育法(理科)	3前				2					△									2	
		初等教科教育法(家庭)	3前				2					△									2	
		初等教科教育法(体育)	3前				2					△									2	
		国語	1前				2	△													2	
		図画工作	1前				2	△													2	
		体育	1後				2		△												2	
		算数	2前				2			△											2	
		生活	2後				2				△										2	
		理科	2前				2			△											2	
		家庭	2後				2				△										2	
		社会	2後				2				△										2	
		音楽	2後	2				△									2					
	言語表現	3前	2					△								2						
	小学校の外国語活動	4前	2							△						2						
	教育課程論	2前	2			△										2						
	教育方法論	2後	2				△									2						
	幼児理解の理論と方法	3後	2						△							2						
	教育相談の理論と方法	3前	2						△							2						
道徳教育の指導法	3前	2						△							2							
特別活動の指導法	2後	2				△									2							
生徒・進路指導の理論と方法	3前	2						△							2							
乳児保育	2後	2				△									2							
障がい児保育	2前	2			△										2							
相談援助	2後	1				△									1							
子どもの保健Ⅰ	2前	2			△										2							
子どもの保健Ⅱ	2後	2				△									2							
子どもの保健演習	2後	1				△									1							
子どもの食と栄養	1後	2		△											2							
社会的養護内容	3前	1					△								1							
保育心理学Ⅰ	2前	2			△										2							
保育心理学Ⅱ	3前	1					△								1							
心理学基礎実験	2前	2			△										2							
心理学基礎実習	2後	2				△									2							
心理アセスメント基礎実習	3後	2						△							2							
心理統計法	2前	2			△										2							
心理学研究法	3前	2					△								2							
学習心理学	2後	2				△									2							
認知心理学	3後	2						△							2							
発達心理学	1後	2		△											2							
社会心理学	3後	2						△							2							
家族心理学	3後	2						△							2							
健康心理学	3後	2						△							2							
障がい児・若者心理学	2後	2				△									2							
臨床心理学概論	1後	2		△											2							
人格心理学	2前	2			△										2							
行動科学	2前	2			△										2							
心理調査概論	3後	2							△						2							

科目区分			授業科目の名称	配当年次	必修・必履修◎、選択必修○、選択△								単位数			履修条件				
					1年	2年	3年	4年	必修・必履修	選択必修	選択									
大	中	小			単位数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期							
専門教育科目 (つづき)	保育と教育の実践		幼児教育実習事前事後指導	3前	1						△								1	
			幼児教育実習 I	3前	2						△									2
			幼児教育実習 II	3前	2						△									2
			初等教育実習事前事後指導	3前	1						△									1
			初等教育実習 I	3前	2						△									2
			初等教育実習 II	3前	2						△									2
			保育実習指導 I	3前	2						△									2
			保育実習 I (保育所)	3前	2						△									2
			保育実習 I (施設)	3後	2								△							2
			保育実習指導 II	4前	1								△							1
			保育実習 II (保育所)	4前	2								△							2
			ピアノ実技とソルフェージュ I	1前	2	(◎)											必履2			
			ピアノ実技とソルフェージュ II	1後	2		(◎)										必履2			
			子どもの歌と伴奏法 I	2前	2				△											2
	子どもの歌と伴奏法 II	2後	2					△										2		
	アンサンブル I	1前	2																	
	アンサンブル II	1後	2																	
	特殊講義 I	2前	2				△											2		
	特殊講義 II	2後	2					△										2		
	特殊講義 III	3前	2						△									2		
	特殊講義 IV	3後	2							△								2		
	生涯学習論	2後	2					△										2		
	社会教育論	2前	2				△											2		
	幼児体育	2前	2				△											2		
	自然環境論	2後	2					△										2		
	教育社会学	3前	2						△									2		
	地域・学校連携論	3前	2						△									2		
	子ども文化論	3後	2							△								2		
	子どもと野外活動	1前	1	△														1		
	子どもとマルチメディア	4前	2								△							2		
	地域防災論	3前	2						△									2		
	環境物理学	4後	2										△					2		
	保育・教育研究	1前	2	◎											必2					
	専門教養演習	2通	2		◎	◎									必2					
	人間教育研究基礎	3後	2							◎					必2					
	人間教育研究 I	4前	2								◎				必2					
	人間教育研究 II	4後	2									◎			必2					
	保育・教職実践演習 (幼・小)	4後	2										◎		必2					
	自由選択単位																	18単位以下		
	専門教育科目合計②																	98単位以上		
	合計単位数 (①+②)																	124単位以上		

## 2. 保育士課程（人間教育学科）

### （1）保育士課程とは

保育士について、児童福祉法では「第十八条の十八第一項の登録を受け、保育士の名称を用いて、専門的知識及び技術をもって、児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行うことを業とする者をいう。（児童福祉法第十八条の四）」と定義しています。このように、保育士は子どもへの保育はもちろんのこと、その親に対しても保育指導を行うことができる専門職なのです。

保育士となる資格を有する者は、次のいずれかに該当する者とされています。（同第十八条の六）

- ①厚生労働省大臣の指定する保育士を養成する学校その他の施設（以下「指定保育士養成施設」という。）を卒業した者  
 ②保育士試験に合格した者

人間教育学科の保育士課程は、上記①の指定保育士養成施設となりますので、この課程に在籍し、必要な単位を修得し、卒業すれば、保育士試験を受験しなくても、保育士の資格を得ることができます。ただし、保育士となる資格を有する者が保育士となるには、保育士登録簿に、氏名、生年月日その他厚生労働省令で定める事項の登録を受けなければなりません。（同第十八条の十八第一項）

保育士課程を履修する場合には、履修初年度に、①保育士課程履修料として25,000円を納金しなければなりません。この他にも、保育実習受講時には、保険料や食費などの実費が必要です（詳細は、実習時に通知します）。保育士登録には、所定の手続きおよび登録手数料等の納入が必要となります。

なお、保育士課程は40名の定員を設けていますが、履修希望がこれを上回る場合には履修者の調整をすることがあります。

#### ※留意事項

保育士養成課程では、同じ演習科目でも半期2単位の科目と、半期1単位の科目が開設されている。半期2単位の科目も半期1単位の科目も、大学での授業時間は同じであるが、大学での授業外に必要な学修時間が大きく異なっている（半期2単位科目は、半期1単位科目の4倍の授業外学修時間が必要となる）。当該科目の担当教員は、学生が授業外で十分な予習・復習、その他の自己学習が行えるような指導を行うが、学生各自も進んで授業外の学修を行うよう留意すること。

### （2）保育士課程に関する科目

保育士課程の科目対応表

#### ①教養科目

系 列	児童福祉法施行規則			本学における開講科目			配 当 年 次	備 考
	教 科 目	授業形態	単位数	左に対応して開設されている教科目	単位数			
					必修	選択		
教養科目	外国語、体育以外の科目	不問	6以上	環境と科学	2		1・2後	
				生活	2		2前	
				国語	2		1前	
	外 国 語	演習	2以上	小学校の外国語活動	2		4前	
	体 育	講義	1	健康科学と身体運動	2		1・2後	
実技		1	子どもと野外活動	1		4前		
必要修得単位数		8単位以上		本学の必要修得単位数		11単位		

②必修科目

系 列	児童福祉法施行規則			本学における開講科目			配 年 次	備 考
	教 科 目	授業 形態	単位 数	左に対応して開設 されている教科目	単位数			
					必修	選択		
保育の本質・ 目的に関する 科目	保育原理	講義	2	保育原理	2		1 後	
	教育原理	講義	2	教育原理	2		1 後	
	児童家庭福祉	講義	2	児童家庭福祉	2		3 前	
	社会福祉	講義	2	社会福祉論	2		1 後	
	相談援助	演習	1	相談援助	1		2 後	
	社会的養護	講義	2	社会的養護	2		2 後	
保育の対象の 理解に関する 科目	保育者論	講義	2	保育者論	2		2 後	
	保育の心理学Ⅰ	講義	2	保育心理学Ⅰ	2		2 前	
	保育の心理学Ⅱ	演習	1	保育心理学Ⅱ	1		3 前	
	こども保健Ⅰ	講義	4	子どもの保健Ⅰ	2		2 前	
	こども保健Ⅱ	演習	1	子どもの保健Ⅱ	2		2 後	
	こどもの食と栄養	演習	2	子どもの食と栄養	1		2 後	
保育の内容・ 方法に関する 科目	家庭支援論	講義	2	家庭支援論	2		3 前	
	保育課程論	講義	2	教育課程論	2		2 前	
	保育内容総論	演習	1	保育内容総論	2		1 後	
	保育内容演習	演習	5	保育内容（人間関係）	2		2 前	
				保育内容（健康）	2		2 前	
				保育内容（環境）	2		2 前	
				保育内容（言葉）	2		2 前	
				保育内容（音楽表現）	2		2 前	
保育内容（造形表現）	2		2 前					
乳児保育	演習	2	乳児保育	2		2 後		
障害児保育	演習	2	障がい児保育	2		2 前		
社会的養護内容	演習	1	社会的養護内容	1		3 前		
保育相談支援	演習	1	教育相談の理論と方法	2		3 前		
保育の表現技術	保育の表現技術	演習	4	図画工作	2		1 前	
				体育	2		1 後	
				音楽	2		2 後	
				言語表現	2		3 前	
保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	保育実習Ⅰ（保育所）	2		3 前	
	保育実習Ⅰ（施設）	2		3 後				
総合演習	保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習指導Ⅰ	2		3 前	
	保育実践演習	演習	2	保育・教職実践演習（幼・小）	2		4 後	
必要修得単位数			51 単位	本学の必要修得単位数			64 単位	

③選択必修科目

系 列	児童福祉法施行規則			本学における開講科目			配 年 次	備 考
	教 科 目	授業 形態	単位 数	左に対応して開設 されている教科目	単位数			
					必修	選択		
保育の本質・目的 に関する科目	各指定保育士 養成施設において設定		15 単位 以上	教職概論		2	2 前	
保育の対象の 理解に関する科目				発達心理学		2	1 後	
				障がい児・者心理学		2	2 後	
				幼児理解の理論と方法		2	3 後	
保育の内容・方法に に関する科目				算数		2	2 前	
				教育方法論		2	2 後	
保育の表現技術				アンサンブルⅠ		2	1 前	
	幼児体育		2	2 前				
保育実習	保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲ	実習	2	保育実習Ⅱ（保育所）	2		4 前	
	保育実習指導Ⅱ又は 保育実習指導Ⅲ	演習	1	保育実習指導Ⅱ	1		4 前	
必要修得単位数			9 単位以上	本学の必要修得単位数			9 単位以上	

履修上の注意（保育士課程）

- ①保育士課程科目の単位認定には、原則として当該授業への3分の2以上の出席を必要とする。また、保育実習の受講資格は、次のとおりとする。  
ただし、「保育士・教員養成センター」が保育実習受講の可否について判断が必要とした場合は、下の受講資格を満たしている者であっても、面談を実施の上、保育実習の受講を認めないことがある。
- ②「保育実習Ⅰ～Ⅱ」の受講資格は、次のとおりとする。
- ・「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習Ⅰ（施設）」の受講資格は、6科目（「社会福祉論」「保育原理」「保育者論」「教育原理」「発達心理学」「子どもの保健Ⅰ」）のうち、3科目以上を修得済みであること。
  - ・「保育実習Ⅱ」の受講資格は、以下のア・イの要件を満たすこと。
- ア. 「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習Ⅰ（施設）」および「保育実習指導Ⅰ」を単位修得済みであり、「保育実習指導Ⅱ」を履修登録済みであること。
- イ. 下記の18科目のうち9科目以上を修得済みであること。
- 「保育心理学Ⅱ」「相談援助」「教育相談の理論と方法」「児童家庭福祉」「社会的養護」「障がい児保育」「子どもの保健Ⅱ」「子どもの保健演習」「子どもの食と栄養」「保育内容総論」「保育内容（人間関係）」「保育内容（健康）」「保育内容（環境）」「保育内容（言葉）」「保育内容（音楽表現）」「保育内容（造形表現）」「乳児保育」「社会的養護内容」

## 6. 認定心理士課程（人間文化学科・人間教育学科）

### （1）認定心理士資格とは

認定心理士資格とは、社団法人日本心理学会が認定する資格で、「心理学の専門家」としての職務を遂行する上で必要な最低限の標準的な基礎知識と基礎技術を習得していると認定された人に対して与えられる資格です。

### （2）認定心理士資格の履修

認定心理士の資格を取得しようとする者は、別表の必要科目を履修しなければなりません。履修にあたっては、次項に注意してください。なお、次の①～③の条件は、認定単位数欄「基本」「副次」の単位数で計算してください。

- ①「基礎科目」 a、c 領域で4単位以上修得し、b 領域を含めて合計12単位以上修得すること。
  - ②「選択科目」 d～h の5領域のうち3領域以上で、各4単位以上を含み、合計16単位以上修得すること。
  - ③さらに、a～i 領域の科目より総計36単位以上修得すること。（「基礎科目」と「選択科目」の合計単位数が36単位以上ならば、「その他の科目」は修得しなくてもよい。）
- ※副次主題として認定される科目は修得単位の2分の1が資格申請の際の認定対象となる。

認定心理士資格（（社）日本心理学会認定資格）の科目対応表

	認定心理士資格認定資格細則別表による領域		単位数	本学における開講科目	単位		
					基本	副次	
基礎科目	a	心理学概論	4単位以上	心理学概論	2		
				行動科学	2		
	b	心理学研究法		心理統計法	2		
				心理学研究法	2		
				心理調査概論	2		
	c	心理学実験・実習		c領域4単位以上を含む8単位以上	心理学基礎実験	2	
					心理学基礎実習		(2)
心理アセスメント基礎実習		(2)					
選択科目	d	知覚心理学・学習心理学	5領域のうち、3領域以上において、各4単位以上を含む16単位以上		認知心理学	2	
					学習心理学	2	
	e	生理心理学・比較心理学			—	—	—
					教育心理学	2	
	f	教育心理学・発達心理学		発達心理学	2		
				保育心理学Ⅰ	2		
	g	臨床心理学・人格心理学		保育心理学Ⅱ		(1)	
				健康心理学	2		
人格心理学			2				
障がい児・者心理学			2				
h	社会心理学・産業心理学	臨床心理学概論	2				
		社会心理学	2				
その他の科目	i	その他	「卒研科目」からは心理学に関連したテーマに限り最大4単位まで認める	人間文化演習Ⅰ	4		
				人間文化演習Ⅱ	4		
				人間教育研究基礎	2		
				人間教育研究Ⅰ	2		
				人間教育研究Ⅱ	2		
合計			36	合計	36		

履修上の注意

- ①（ ）は副次主題のため認定心理士資格要件上、修得単位数は1単位の換算になることを示す。
- ②「その他の科目」は、単位認定者が日本心理学会所属の教員であることが求められる。
- ③「その他の科目」の本学における開講科目及び単位数は、日本心理学会の審査結果によって変更になる場合がある。

### （3）資格の申請および交付

4年次前期までに所定の科目と単位を修得した者については、大学が一括して日本心理学会認定心理士認定委員会に仮認定申請を行います。尚、仮認定申請の手続きができる者は、申請書提出時に卒業見込証明書が発行される学生に限ります。仮認定審査に合格した者には、日本心理学会より「認定心理士仮認定証」が交付されます。さらに卒業後、資格認定委員会事務局に卒業証明書を送付することで正規に認定され、「認定心理士認定証」と「認定心理士IDカード」が交付されます。申請手続きについては4年次にガイダンスを行いますので、申請希望者は所定のガイダンスに出席してください。また、申請にあたり、審査料10,000円、認定料30,000円及び手数料を徴収します。（一旦納入した申請料は、どのような理由があっても返還いたしません。）



## 7. 認定心理士（心理調査）課程（予定）（人間文化学科・人間教育学科）

### （1）認定心理士（心理調査）資格とは

認定心理士（心理調査）資格とは、社団法人日本心理学会が認定する資格で、心理学の基礎知識の修得に加え、心理学の研究法を個人的・社会的問題の解決に活用できる力を身につけていると認定された人に対して与えられる資格です。

### （2）認定心理士（心理調査）資格の履修

認定心理士（心理調査）の資格を取得しようとする者は、認定心理士に係わる要件（p73）を満たした上で、別表の「心理調査関係科目」を単位履修し、認定心理士（心理調査）の申請を行う必要があります。

認定心理士（心理調査）関係科目（（社）日本心理学会認定資格）の対応表

	領 域	本学における開講科目		単 位
		基本主題	副次主題	
1 概論	心理調査概論・心理調査法	心理調査概論	心理学研究法 教育心理学研究法※1	基本主題を含む 2単位以上
2 統計	心理学統計	心理統計法	—	2単位以上
3 実践	発展／展開研究（実習）	人間文化演習Ⅰ 人間文化演習Ⅱ 人間教育研究基礎 人間教育研究Ⅰ 人間教育研究Ⅱ	※2	6単位以上

#### 履修上の注意

- ①副次主題として認定される科目は、修得単位の2分の1が資格申請の際の認定対象となる。
- ②※1の科目は、旧カリ（～H28年度入学者）科目である。
- ③※2の科目は、単位認定者が日本心理学会所属の教員であることが求められる。なお、本学における開講科目および単位数は、日本心理学会の審査結果によって変更になる場合がある。

### （3）資格の申請および交付

資格申請にあたっては、個人ごとにweb上で資格申請を行う予定です。なお、審査料15,000円、認定料35,000円および手数料が必要となります。資格の申請および交付の詳細については資格ガイダンスにて説明します。

## 8. その他資格（人間文化学科・人間教育学科）

前述した以外の資格等について、人間学部の学生にとって、参考になりそうなものをいくつか、以下に概説します。いずれも任用資格だったり、受験資格だったり、検定や講座を受ける必要があったりしますので、自分の将来の進路を踏まえながら個々の責任と判断のもとで取得を考えていくことが大切です。

### （1）社会福祉主事（任用資格）

社会福祉主事任用資格とは、福祉事務所職員（公務員）への任用に際し要求される資格（任用資格）のことですが、社会福祉施設職員等の資格にも準用されています。

任用資格を取得する方法には、①厚生労働省が指定する養成校を卒業する、②都道府県が行う講習会を受講する、③大学等において厚生労働省が指定する科目（3科目6単位以上）を履修する、の3通りがありますが、本学においては③の社会福祉法第19条第1項第1号に基づき厚生労働大臣が指定する社会福祉に関する科目の読替えにより、社会福祉主事任用資格を取得することができます。

社会福祉主事任用資格の科目対応表（読替え表）

厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目と読替えの範囲		本学の開講科目		
指定科目	読替えの範囲	科目名	開講学科等	単位
社会福祉概論	社会福祉、社会事業、社会保障制度と生活者の健康、現代社会と福祉	社会福祉論	共通	2
社会福祉調査論	社会調査統計、社会福祉調査、社会福祉統計、社会福祉調査技術、ソーシャルリサーチ、福祉ニーズ調査、社会調査の基礎	社会調査の基礎	文化	2
保育理論	保育	保育原理	教育	2
老人福祉論	老人福祉、高齢者福祉、高齢者保健福祉、高齢者に対する支援と介護保険制度	高齢者福祉論	文化	2
地域福祉論	地域福祉、協同組合、コミュニティワーク、コミュニティオーガニゼーション、地域福祉の理論と方法	地域福祉論	文化	2
心理学	心理学、心理学理論と心理的支援	心理学概論	共通	2
社会学	社会理論と社会システム	社会学概論	共通	2
教育学		教育学概論	共通	2

備考：社会福祉に関する指定科目（第19条第1項第1号）34科目のうち、人間学部で読替え可能な科目は8科目であり、この中から3科目6単位以上修得することが必要である。

### （2）児童指導員（任用資格）

児童指導員任用資格とは、児童養護施設や障害児施設などの児童福祉施設に配置される「児童指導員」として採用する際の基準として厚生労働省が定めた資格です。児童福祉施設において、子どもたちの生活習慣や学習の指導などを行います。児童指導員任用資格は、①大学で福祉・社会・教育・心理学部（学科）を卒業、②小・中・高のいずれかの教員免許を取得、③厚生労働大臣指定の児童指導員養成校を卒業、④児童福祉施設での実務経験者（高卒以上2年、その他3年）、のいずれかに該当すれば有資格者となります。

### （3）知的障害者福祉司（任用資格）

知的障害者福祉司は、福祉事務所において知的障害者の福祉に関する技術的指導や相談に応じ、必要な調査・指導及び付随業務を行うことを任務とする専門職です。知的障害者福祉法に規定されている任用資格で、①社会福祉主事任用資格を持ち、知的障害者の福祉に関する事業に2年以上従事した経験のある者、②大学等で厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目を修め卒業した者、③医師、④知的障害者の福祉に関する事業に従事する職員を養成する厚生労働大臣指定の施設を卒業した者、⑤1～4に準ずる知的障害者福祉司に必用な学識経験がある者、のいずれかに該当すれば有資格者となります。ただし、「②大学等で厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目を修め卒業した者」とありますが、特に科目の指定がなされていません。社会福祉系の学部・学科として認可されている場合は問題ないようですが、他の学部・学科ではやや不透明な面があります。福祉系3科目を履修条件に独自に認めている保育・教育系の学部・学科もみられます。

#### **(4) 母子指導員（任用資格）**

母子指導員は、母子生活支援施設で、母親への就労援助や日常の育児・家事などの相談に応じたり、前夫や親族との関係改善を精神面で支援し、法的手続きや関係機関との調整を行うことが仕事です。実際の就職のときには、保育士や児童指導員任用資格をもっていることが条件になるのが一般的です。それとともに、公立施設の場合には、母子指導員は地方公務員となりますので、地方公務員試験に合格しなければなりません。

#### **(5) 少年指導員（任用資格）**

少年指導員は、母子生活支援施設で、子どもの日常生活援助を中心に、学習や生活習慣が身につくような行事を立案するほか、親子関係や友人関係をうまく保てるように援助することが仕事です。少年指導員についての規定は特にありませんが、児童指導員任用資格の取得を条件にされることが多いようです。それとともに、公立施設の場合には、少年指導員は地方公務員となりますので、地方公務員試験に合格しなければなりません。

#### **(6) 産業カウンセラー**

産業カウンセラーとは、(社)日本産業カウンセラー協会が認定する資格で、企業従業員全員を対象にし、職場で人間関係やストレスに悩む方のカウンセリングとケアを行う心の専門家です。受験資格は、①心理学系の大学等で関連科目を取得し卒業した者や、②協会が行う産業カウンセリングの講座等を修了した者となっています。

#### **(7) 旅行業務取扱管理者**

旅行業務取扱管理者とは、旅行業法に定められている旅行業者及び旅行業者代理業者の営業所における顧客との旅行取引の責任者のことで国家資格です。国内旅行に関する国内旅行業務取扱管理者と、海外旅行を取り扱う総合旅行業務取扱管理者の2種類があり、試験は国内・総合ともに受験制限は特にありません。